

取扱説明書

保存用

日立LED照明器具

HITACHI
Inspire the Next

【逆富士形】

型式: NME4105-JM14AE・NME4205-JM14AE

●初期照度補正形

日本国内用

●電源電圧は100~242Vまで対応

- このたびは日立LED照明器具をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- 器具の取付工事には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず電気工事店(有資格者)に依頼してください。
お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、お守りいただくことを、次のように説明しています。
ここに示した注意事項は、表示内容を見逃して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される」内容です。

絵表示の例



「警告や注意を促す」
内容のものです。



してはいけない「禁止」
内容のものです。



実行していただく「指示」
内容のものです。

工事店様へ この取扱説明書は、工事終了後、必ずお客様にお渡しください。

安全上のご注意 (必ずお守りください)



警告

- 取付工事は「取り付けかた」に従い、確実に行う。※不備があると、火災・感電・落下によるけがの原因となります。
- 壁取り付けや傾斜天井への取り付けはしない。※火災・感電・落下によるけがの原因となります。
- 表示された電源電圧(定格電圧 $\pm 6\%$)以外の電圧で使用しない。※火災・感電の原因となります。
- 器具を分解、改造しない。※火災・感電・落下によるけがの原因となります。
- 外郭に破損があるものや、落下した直管形LEDランプは使用しない。※感電・落下によるけがの原因となります。



注意

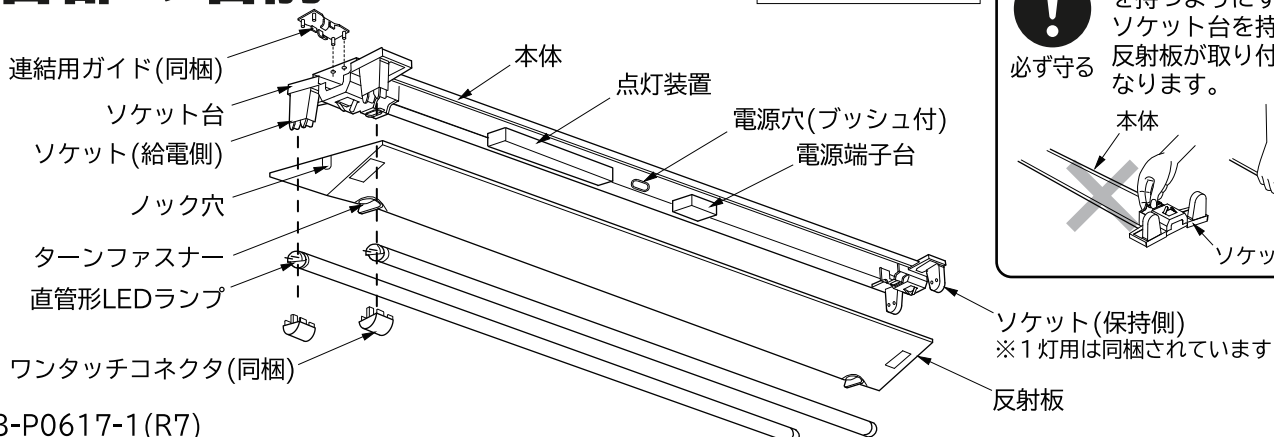
- 本器具は一般屋内用照明器具です。直射日光のあたる場所・湿気の多い場所・振動のある場所・雨の吹き込みを受ける場所・腐食性ガスの発生する場所・風などが直接あたる場所では使用しない。
※火災・感電・落下によるけがの原因となります。
- 器具に物をぶついたり、荷重をかけたり、無理な力を加えたり、傷を付いたり、落としたりしない。
※破損によるけがの原因となります。
- 周囲温度は5~35℃以外では使用しない。※火災・不点灯・短寿命の原因となります。
- 電源入力部に電源スイッチ等を設置する場合は、必ず活線側に電源スイッチ等を設置(両相とも活線の場合は両相に設置)する。※早期故障・電源オフ時にLEDが微発光する原因となります。
- 器具銘板またはラベルに記載されている適合直管形LEDランプ以外は使用しない。※不点灯・短寿命の原因となります。
- ワンタッチコネクタの取り付けかたは、直管形LEDランプに同梱の「取り扱い上のご注意」をご参照ください。
※不備があると、不点灯・ソケット破損の原因となります。

その他のご注意

- 500Vを超える絶縁抵抗計を用いて、絶縁抵抗試験をしない。※故障の原因となります。
- 漏電ブレーカーに本器具を多数接続する場合は、器具の接続台数に注意する。
不要動作を防止するため、感度電流30mAの高周波対応形漏電ブレーカーで最大40台としてください。

各部の名前

例図はNME4205



取り付けかた

※取り扱いを説明するため一部省略抽象化した図です

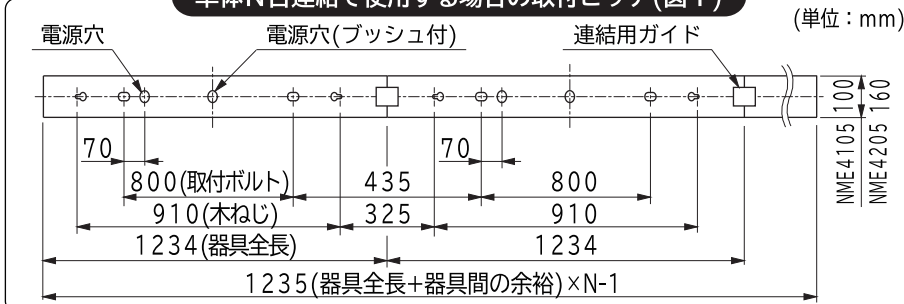
1 取付前に確認する。

- 取付ボルトまたは木ねじ取付部を器具質量(表1)に十分耐える補強のある天井面に設ける。
※強度が不足していると、落下によるけがの原因となります。
- 単体N台連結で使用する場合は、(図1)を参照してください。
連結には連結用ガイドを使用し(図2)に従い、取り付けてください。
※取付ボルトはW3/8又はM10を使用する。
木ねじは、丸木ねじの呼び径4.1以上を使用する。
- 取付ボルトの出代は本体30mm以下にする。
※取付ボルトが出すぎると、反射板が取り付けられなくなります。

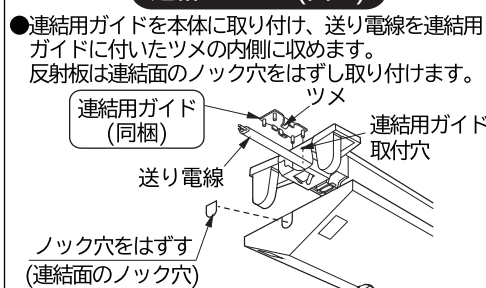
器具質量(表1)

型式	灯数	器具質量
NME4105-JM14AE	1	2.0 kg
NME4205-JM14AE	2	2.8 kg

単体N台連結で使用する場合の取付ピッチ(図1)



連結のしかた(図2)



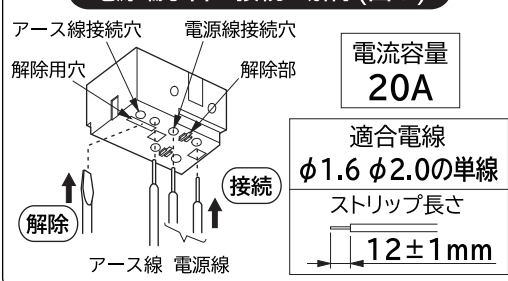
2 器具本体を取付ボルトまたは木ねじで天井面に確実に取り付ける。

- 電源線・アース線を電源穴(ブッシュ付)から引き込んでおく。
他の電源穴から引き込む場合は、ブッシュを付けかえてください。

3 電源線・アース線を電源端子台に接続する。(図3)

- 電源線・アース線を指定の長さにストリップし、接続穴にしっかり差し込む。※接続に不備があると、火災・感電の原因となります。
- 反射板で挟まないよう電線を処理する。
- アース工事はD種接地工事を行う。
※アース工事が不完全な場合、感電・火災の原因となります。
- 電源線を解除する場合は、ドライバーで解除部を押してはずす。
アース線を解除する場合は、マイナスドライバーを解除用穴に挿入してはずす。

電源端子台の接続と解除(図3)



4 ソケットをソケット台に取り付ける。(NME4105のみ)

5 反射板を確実に取り付ける。(図4)

- 反射板を本体にセットし、押し上げながらターンファスナーを確実に90°回転させ、反射板を本体に固定する。
(ターンファスナーは工場出荷時に反射板に仮止めされています。)

6 直管形LEDランプ、ワンタッチコネクタを確実に取り付ける。(図5)

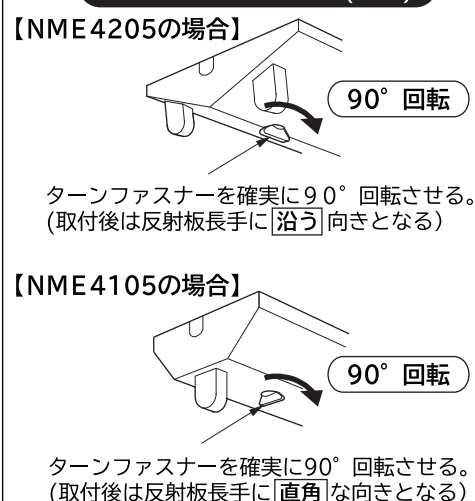
- 直管形LEDランプには方向性があります。
取り付けの向きにご注意ください。
※ワンタッチコネクタを取り付けないと点灯しません。
※取り付けに不備があると、落下によるけがの原因となります。

7 取り付け完了後、絶縁抵抗を確認する。

- 絶縁抵抗試験は500V以下の絶縁抵抗計を用いる。
※500Vを超える絶縁抵抗計を用いると、故障の原因となります。

8 工事完了後に直管形LEDランプが正常に点灯するか確認する。

反射板の取り付けかた(図4)

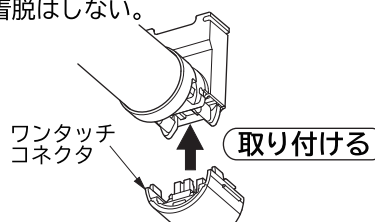
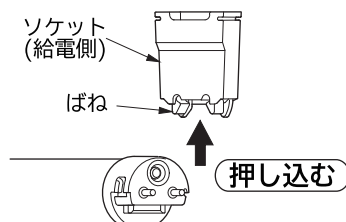
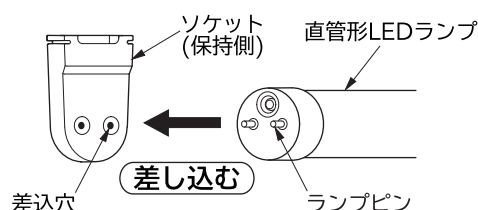


直管形LEDランプの取り付けかた(図5)

①保持側ソケットの差込穴にランプピンを差し込む。

②給電側ソケットのばねにランプピンを押し込む。

③ワンタッチコネクタを取り付ける。
※通電状態でワンタッチコネクタの着脱はしない。



お客様へ この取扱説明書は必ず保存してください。

安全上のご注意 (必ずお守りください)

⚠ 警告

- 器具を分解、改造しない。※火災・感電・落下によるけがの原因となります。
- 器具の隙間に金属類を差し込まない。※火災・感電の原因となります。
- 器具や直管形LEDランプを布や紙など燃えやすいもので覆ったり、かぶせたりして使用しない。※火災の原因となります。
- 煙がでたり異臭がしたら、すぐにスイッチを切り、器具の使用をやめる。※火災・感電の原因となります。
- 直管形LEDランプ交換やお手入れは、取扱説明書により確実に行う。※火災・感電・落下によるけがの原因となります。

⚠ 注意

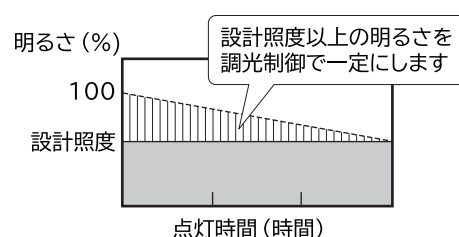
- 器具の近くで温度の高くなるもの(ストーブ・ガスレンジ等)を使用したり、近くに燃えやすいものを置かない。
※火災の原因となります。
- 器具銘板またはラベルに記載されている適合直管形LEDランプ以外は使用しない。※不点灯・短寿命の原因となります。
- 直管形LEDランプだけを器具から取りはずしての間引き点灯はしない。※火災・短寿命・絶縁不良の原因となります。
- 器具に物をぶついたり、荷重をかけたり、無理な力を加えたり、傷を付けたり、落としたりしない。
※破損によるけがの原因となります。
- 落とした直管形LEDランプは使用しない。※感電・落下によるけがの原因となります。

ご使用上の注意

- 明るく安全に使用していただくために、定期的に清掃・点検をする。
3年に1回は電気工事店等の専門家による点検を実施していただき、不具合がありましたら交換してください。
- 照明器具には寿命があります。直管形LEDランプは寿命が来ても点灯し続けますが、設置して8～10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化は進行していますので点検・交換してください。
(使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯です。)
- 電波の弱い場所(山間・鉄筋建物等)では、ラジオや室内アンテナ使用のテレビに影響することがあります。
- 器具の近くで赤外線リモコン方式のテレビなどを使用するのはお避けください。リモコンを操作しても作動しないことがあります。
- 器具の近くで同時通訳機等の誘導無線やワイヤレスマイクの使用はお避けください。雑音が入り正常に作動しないことがあります。
- LED素子は製造上、発光色・明るさにバラツキがあります。同一型式の直管形LEDランプでもLED素子のバラツキによる発光色や明るさにムラが生じることがあります。
- 壁面や床面等への照射距離が近い時や照射面によって光ムラが気になる場合があります。
- 器具周囲に硫黄成分が存在する場所(温泉地など)での使用はお避けください。光学特性などに不具合が発生することがあります。

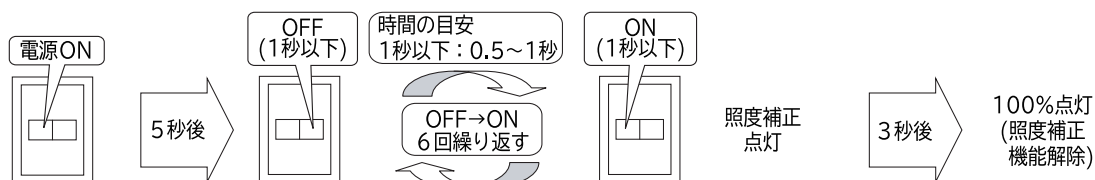
初期照度補正機能について

- 室内の設計照度は寿命時の明るさで設定されているため、新しい照明器具は設定以上の明るさが出ています。
初期照度補正機能とは設計照度を考慮して、明るさを調光制御で一定にして省エネをはかる機能です。
明るさを重視するときは照度補正機能を解除して、その時の100%の明るさにすることもできます。
- 本製品には累積点灯時間を記憶するタイマーを内蔵しており、新しい直管形LEDランプに交換した場合は、累積点灯時間のリセット操作が必要です。



初期照度補正機能を解除したい場合

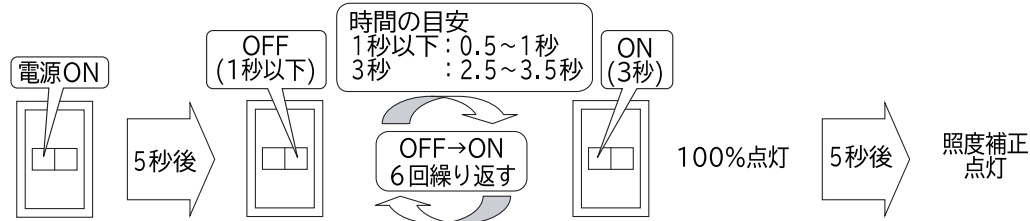
- 電源ONにして、下図の操作を行ってください。
※壁スイッチで操作する場合は、同一スイッチ回路に接続されたすべての器具が解除されます。
※操作後、明るさが変化しない場合は、解除操作が正しく行われていません。再度、解除操作を行ってください。



- 照度補正機能に戻す場合も上記の操作を行ってください。(累積点灯時間はリセットされています。)

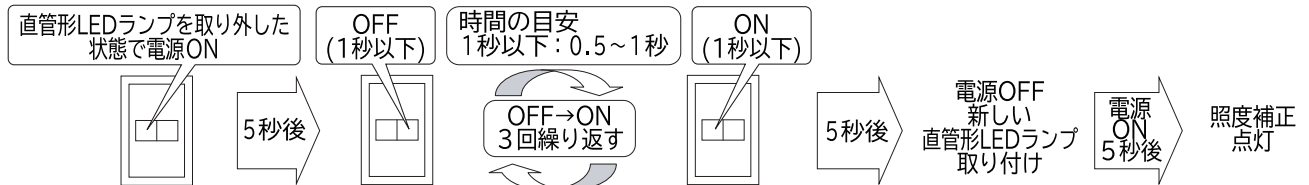
一斉に直管形LEDランプ交換したときのリセット操作 (同一スイッチ回路に接続されたすべての器具を一斉にリセットする場合)

- 電源OFFにして直管形LEDランプ交換後、下図の操作を行ってください。
※操作後、明るさが変化しない場合は、リセット操作が正しく行われていません。再度、リセット操作を行ってください。



個別に直管形LEDランプ交換したときのリセット操作 (その器具だけをリセットする場合)

- 電源OFFにして古い直管形LEDランプを取り外し、下図の操作を行ってください。
※操作後、明るさが変化しない場合は、リセット操作が正しく行われていません。再度、リセット操作を行ってください。



ご使用上の注意

- 照度補正機能解除操作または直管形LEDランプ交換時のリセット操作を行ったときに、万一、同一スイッチ回路に接続された器具の照度補正と定格出力の状態が混在した場合は次の操作をしてください。
すべての器具の累積点灯時間タイマーがリセットされ、照度補正機能動作状態になります。
〔電源ON状態から、電源OFF(1秒以下)→電源ON(1秒以下)を16回繰り返す〕
- 2灯用器具の場合、直管形LEDランプは2本同時に新しいものと交換してください。(適正な照度を得られません)
- 器具、直管形LEDランプの汚れに対する補正はできません。定期的に清掃をしてください。
- ホタルスイッチの仕様によっては、リセットができません。

お手入れ・直管形LEDランプ交換 (必ず電源を切ってから行ってください)

- 直管形LEDランプ・反射板がほこりなどで汚れますと、明るさが低下します。汚れが目立ちはじめましたら、きれいな布を水またはうすめた中性洗剤に浸してよく絞ってからふきとり、さらに乾いた布でふいて仕上げてください。
- お手入れなどで直管形LEDランプをはずす場合は、2ページ「取り付けかた」の逆の手順で行ってください。
再度取り付ける場合は、「取り付けかた」に従い、確実に行ってください。
不備がありますと、落下によるけが・直管形LEDランプの破損の原因となります。

- みがき粉・ベンジンなどの揮発性のもの・アルカリ性洗剤・化学ぞうきんでふいたり殺虫剤をかけないでください。
また直管形LEDランプ・器具の水および洗剤での丸洗いは、絶対にお避けください。
割れ・傷・変色・サビの原因となります。
- 点灯中や消灯直後は、直管形LEDランプが高温になっているので触れないでください。
やけどの原因となります。

- 本器具は日立直管形LEDランプ専用です。直管形LEDランプ交換の際は、下記日立製直管形LEDランプを必ずご使用ください。
指定以外の直管形LEDランプを使用すると、火災・感電・落下・器具の破損の原因となります。

必ず守る	適合直管形LEDランプ LDK40SS・*/22/**NE LDK40SS・*/17/**NE LDK40SS・*/15/**NE
------	---

保証とアフターサービス

- この製品は日本国内用です。
電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。また、アフターサービスもできません。
- 照明器具の保証期間は、商品お買上げ日より1年間です。但し、点灯装置は3年間です。
- 保証期間を過ぎていたときは、お買い上げの販売店(工事店)にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。
- ご使用中、器具に異常が生じた場合は直ちに使用を中止し、電気工事店または照明サービスセンターに、器具の型式・故障状況を連絡のうえ修理を依頼してください。

照明サービスセンター：電話(0120)-335-762 受付時間：土日祝日を除く9:00-17:00

日立グローバルライフソリューションズ株式会社